



2007 CIK-FIA ワールドカップ カートレース IN JAPAN

2007 CIK-FIA WORLD CUP KART RACE IN JAPAN

鈴鹿サーキット 国際南コース 1.264km

2007年5月 25日(金)・26日(土)・27日(日) ファイナル

- 開催クラス：CIK-FIA WORLD CUP FOR KF1 / CIK-FIA ASIA-PACIFIC KF2 CHAMPIONSHIP
- 同日開催：FP-Jr / CELL OPEN
- プロモーター：株式会社 モビリティランド
- オーガナイザー：鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 公認：国際カート委員会 (CIK) / 国際自動車連盟 (FIA) / 社団法人 日本自動車連盟 (JAF)
- 後援：鈴鹿市 / 鈴鹿商工会議所 / 鈴鹿市観光協会 / 鈴鹿モータースポーツ市民の会 / カートメーカーインポーター協会 (KMIA) 有限責任中間法人 SLカートのスポーツ機構 (SLO) / 日本カートランド協会 (JKLA) / 日本選手権オーガナイザー会 (JKOA)
- オフィシャルパートナー：株式会社サントレード
- 開催日程：2007年5月25日(金) ゲートオープン8:00 ノンクオリファイイング プラクティス
26日(土) ゲートオープン8:00 クオリファイイング プラクティス / クオリファイイング ヒート
27日(日) ゲートオープン8:00 ウォームアップ / セレモニー / プレファイナル / ファイナル



ゆうえんち入園料でご覧いただけます。(※各日とも1日のみ有効)

料金(ゆうえんち入園料)		
大人 (中学生以上)	子供 (小学生)	幼児 (3歳~未就学児)
1,600円	800円	600円

お車でのご越しの方は、ゆうえんち駐車場に駐車いただき、無料シャトルバスをご利用ください。

■無料シャトルバス運行区間：正面ゲート⇄国際南コース

M・アーディゴ、O・ミルロイらの新鋭、D・フォレ、S・チェセツティらベテラン勢も鈴鹿に結集！ 迎え撃つ日本のエース石井一也、野尻智紀らとの対決に注目！！



M・アーディゴ



O・ミルロイ(2006年の走り)



石井一也

今年も鈴鹿サーキット、国際南コースには世界を代表する選手が大挙エントリーしてきた。中でも注目は23歳のマルコ・アーディゴ(イタリア)、17歳のオリバー・ミルロイ(イギリス)だ。アーディゴは昨年のヨーロッパ選手権FAクラスチャンピオンで、ワールドカップカートでもFA(今季のKF1)クラスで4位に入った実績があり、今年はヨーロッパ選手権開幕戦で2ヒート制覇の完全優勝を達成するなど、今最も勢いのある選手だ。ミルロイは昨年のワールドカップカートICA(今季のKF2)クラスに参戦。今季はKF1にステップアップしてきた精鋭。そしてワールドカップカートで忘れてはならないのが強豪ベテラン勢だ。イタリアのダビデ・フォレ(32歳)、サウロ・チェセツティ(31歳)が参戦。フォレは2000年に優勝するなど、これまでワールドカップカートレースでも数々の好成績を残しており、トップ争いからんでくるのは確実。そして彼らを迎えうつ形になるのが日本の若きエース石井一也(17歳)、野尻智紀(17歳)だ。石井は2005年のアジア・パシフィック選手権ICAクラスチャンピオンを獲得。今年からは活動の場をヨーロッパに移し、さらなる飛躍が期待されている。野尻は昨年全日本選手権FAクラスチャンピオンを獲得。石井同様今年もヨーロッパをベースに活躍しており、ともに凱旋レースでもある。

またKF2(昨年のICA)クラスにも期待の新鋭、イギリスのW・J・R・スティーブンス(15歳)が参戦。タイのトップカーター、ティン・スリライ(17歳)、日本期待の中山雄一(15歳)、大谷涼(15歳)との対決が見ものとなってきた。KF1クラス、KF2クラスとも、彼らが見せてくれるのは世界最高峰の走り。それは国際南コースでしか観ることのできない究極のバトルだ。



D・フォレ



S・チェセツティ

エンジン排気量が100ccから125ccに。規定変更で驚異のハイスピードバトルがさらに速く！ラップタイムに注目だ！

テクニカル&ハイスピードの国際南コースバトルを、さらに面白くするのが今年からのレギュレーション変更だ。これまでのFAクラスが新たにKF1クラスとなり、エンジン排気量は100ccから125ccへとアップ。エンジン回転数は16,000回転に制限されるものの、その性能は驚くほどアップした。また、併催クラスのアジア・パシフィック選手権ICAクラスはKF2クラスへと変更。エンジン排気量はKF1クラスと同じ125cc。エンジン回転数は15,000回転に制限されるが、大幅な性能の向上は誰の目にも明らかだ。KF1、KF2共に今回が日本での初開催となる。注目されるのは国際南コースをいったい何秒で駆け抜けるのかだ。これまで誰も経験したことのない領域に突入するのは間違いないだろう。そしてそのスピードで展開されるレースは、まさに異次元のハイスピードバトルとなる。

G・フィジケラ、J・バトン、J・トゥルーリ、そして2年連続のワールドチャンピオンF・アロンソ。ワールドカップが数々のF1ドライバーを輩出



F1ワールドチャンピオンのF・アロンソ(1998年)

1991年に初開催されたワールドカップカートレース。その年に活躍したのがF1ルノーチームのG・フィジケラだった。フィジケラは93年にも参戦しFSAクラス2位入賞を果たしている。そしてワールドカップで最も光り輝いていたのがF1トヨタチームで大活躍のJ・トゥルーリ。初開催の91年から5年連続してFSAクラスに参戦。93年に3位表彰台を記録すると、94、95年と2連覇達成だ。F1ホンダチームのエースJ・バトンも96年FAクラスに参戦し3位表彰台を記録。翌年はFSAに参戦し、大器の片鱗を見せつけた。今季トロ・ロツソチームから出場のV・リウツィは97年から参戦し、99年に優勝。2005年、F1最年少チャンピオンを獲得したF・アロンソも98年にFAクラスに参戦している。この年は決勝が豪雨のため中止となったが、アロンソは予選ヒートでトップを獲得するなど、バトン同様未来のF1を予感させる走りを披露した。さらには今年ルーキーながら大活躍しているL・ハミルトン(マクラーレン)も2000年(もてぎ)に参戦して優勝、その他にもA・デビッドソン、R・クビサ、H・コバライン、N・ロズベルグも参戦しており、現役F1ドライバー22名中10名がワールドカップでの活躍をステップに世界の頂点に上り詰めた。やはりワールドカップはF1候補生たちにとって重要なタイトルとなるのだ。



G・フィジケラ(1993年)



J・バトン(1997年)



J・トゥルーリ(1995年)



N・ロズベルグ(2000年)



V・リウツィ(2000年)

注目のCELL OPEN、FP-Jrがサポートレースとして開催！ 将来のF1候補生が大挙参戦！！

今年のワールドカップカートレースではKF1、KF2に加え、「CELL OPEN」、「FP-Jr」がサポートレースとして開催される。CELL OPENは鈴鹿サーキット独自のカテゴリで、125ccのセルモーター、クラッチ付きのエンジンを使用して争われるもの。今回はイアメ、ヴォルテックス、ロータックスの3種類のエンジンが使用できる。レギュレーションは異なるが、鈴鹿選手権シリーズでも開催され、毎戦大接戦が展開されているだけに、その舞台がワールドカップとなれば各選手とも当然力が入る。これまでになく激しい争いとなるのは確実だ。

もうひとつのFP-Jrは12歳から15歳のジュニアドライバーによるレース。これまで鈴鹿ではこのクラスは開催されておらず、今回が初レースとなる。加えて同じ規定のJAFジュニア選手権の最終戦(11月4日開催)も国際南コースで開催されることが決まっており、その最終決戦に向けての前哨戦、タイトルの方角を占う一戦でもある。このクラスはこれまでも今季ヨーロッパのGP2を戦う平手晃平、ユーロF3を戦う小林可夢偉、全日本F3選手権で現在ポイントランクトップに立つ大嶋和也らを輩出しているだけに注目度は高く、将来のトップドライバー候補が激しいバトルを披露してくれるはずだ。